



特定非営利活動法人エフエムわいわい
Nonprofit Organization FMYY(En)
Organización sin fines de lucro FMYY(Es)
Tổ chức NPO FMYY(Vt)

特定非営利活動法人エフエムわいわい 2024 年度事業報告

◆総括(文中では特定非営利活動法人 FM わいわいを FMYY と表現する)

1995 年阪神・淡路大震災発災から生まれた FMYY の理念「多文化共生のまちづくり、長田から世界へ」のスローガンは震災 30 年を翌年に迎える 2024 年度も多様な関係者と連携しながら、多文化共生社会づくりに向けた活動に取り組んでいくことに変わりはない。

今年度は JICA 関西のペルー共和国リマ近郊カヤオ特別県ミペルー区及び周辺地域で JICA 草の根技術協力事業「在日日系人が培った知識と経験を生かしたコミュニティ防災力強化事業」(2023 年 1 月から 5 年間) が大きな成果を現地コミュニティで生み出したことは喜ばしいことである。

この事業の始まりは 2000 年のラジオ時代から行っている毎週水曜日の番組「Latin-a」(「ひょうごラテンコミュニティ」の番組) である。この番組が伝え続けている「自分の命は自分で守る。そのためには自分が理解しやすい言語で伝えることが重要」という番組コンセプトは、震災の混乱時 1995 年 1 月 30 日の「ヨボセヨ〜(韓国・朝鮮語でのもしもし)」という呼びかけで始まった「違う言語を持つ人が共に暮らしている」という気づき、それに呼応している。そしてそれがネットという現代においては海を越え本国のリスナーまでにも届いたと言える。

阪神・淡路大震災被災地から生まれた大切な「気づき」は、まちは一色ではなく数え切れないほどの違いを持った人々で構成されているということ、被災後の支援もそれぞれの違いに心を留め、一人ひとりに寄り添った対応が必要だというであった。FMYY が生まれたこともその「違い」の象徴であったと言える。

長田区と共に実施している「多文化交流・共生促進のための地域共生コーディネート業務」は 3 年を経過し、独自事業で開始した日本語学校外国人留学生への食糧支援の事業と呼応し、定住外国人のみならず 2 年間の学校在籍という短期滞在の若者たちと顔の見える関係を築くことができた。彼らとの出会いの場を地域の人々と共有するということと取り組みへと進んでいる。

2024 年能登半島大地震に豪雨災害、2025 年ミャンマーでの地震など数々の災害が続いた。また自然災害だけではなくウクライナ侵攻、シリア内戦、アフガニスタン紛争など心を痛めるニュースが毎日飛び交いその終息の気配は見えない。兵庫県においては FMYY がその最初から「人々に寄り添う」ためのツールとして活用してきたメディア本来の「媒体」「媒介」の役目から逸脱した、姿を見せずに人を攻撃し情報操作をも可能なメディアの台頭は FMYY にとって大きな課題であった。社会の中に「多様性」や「寛容性」に対する共感を生み出すような番組制作や波及力に今ひとつ力の無さに歯痒さを実感した 1 年でもあった。

I 事業

多文化共生のまちづくりに資するコミュニティメディア事業

A.番組制作 WEB での配信、Facebook や podcasts などのネット配信を行った。

FMYY YouTube	FMYY WEB	FMYY Facebook	FMYY Podcast
www.youtube.com/@fmyytube	www.tcc117.jp/fmyy/	www.facebook.com/fmyy778/	itunes.apple.com/jp/podcast/id1453314211
			



「災害の記憶を風化させないために」



「1.5 世代が語り継ぐ阪神・淡路大震災」1



「1.5 世代が語り継ぐ阪神・淡路大震災」2



「1.5 世代が語り継ぐ阪神・淡路大震災」3



「阪神淡路大震災から
30 年を振り返って」行
政職員の視点



「大阪災害復興活動展」
開会式@読売新聞大阪本
社



輪島市町野町区「まちの
ラジオ」開局！応援メッセ
ージ！



兵庫県知事選とメディア
～県知事選での SNS

配信番組はレギュラー番組、震災 30 年を記憶するための特番、市民活動団体と共に「兵庫県知事選挙立候補者討論会」ライブ配信参加、メディアの在り方など随時番組を制作した。

B.地域での多様性の発信イベント

- 4 月 29 日第 20 回「花水木まつり」ステージ音響・進行担当、動画配信
- 6 月 8 日第 51 回長田フェスティバル 阪神自動車航空鉄道専門学校日本語別科の屋台出店
- 8 月 3 日のだきた夏祭り@大国公園
- 8 月 4 日フェスタペルアナ@KIITO
- 11 月 24 日まちの文化祭@ふたば学舎 ミキサー派遣と野外映画上映会参加
- 1 月 17 日第 27 回「1.17KOBE に灯りを in ながた」@新長田駅前会場からの実況生中継

C.多文化共生のまちづくりと災害の被災者支援・防災力向上事業（国内）

1. 兵庫県内の外国人労働者の生活環境を改善する事業

PHD 協会と共に、2024 年 5 月から JICA の委託事業（NGO 提案型プログラム）「多文化共生に資するコンサルテーションを通じた NGO 等の能力強化プログラム」（タブコラ 2 事業）を兵庫県内の川西市、神河町、丹波市、丹波篠山市、神戸市西区で実施した。NPO 法人多言語センターFACIL、吉富志津代武庫川女子大学心理・社会福祉学部教授（FMY 正会員）も事業協力団体・協力者として事業に参加。2026 年 4 月まで実施予定で、2021 年 7 月から 2023 年 8 月まで実施した NGO 等提案型事業「兵庫発！多文化共生のための市民社会とビジネスセクター連携構築プログラム～外国人労働者とのより良い共生に向けて」（タブコラ事業）のフェーズ 2 に当たる。

川西市では、多文化共生事業に取り組む社会福祉協議会の伴走支援、神河町では市民団体「かみかわ国際交流コミュニティ」の能力強化支援、丹波市及び丹波篠山市では医療通訳制度の導入支援、神戸市西区では神戸市地域協働課による多文化共生の取り組みを支援する活動を行なった。

2. 長田区における多文化共生の地域づくり事業

長田区役所から委託を受けて「多文化交流・共生促進のための地域共生コーディネート業務」を続けている。2022 年度からの三年目の 2024 年度は、外国人留学生への食糧支援の機会を活用して、地域自治体と外国人留学生の出会いの場を創設した。その繋がりを活用し、長田区主催フェスティバルや地域主催イベントでのステージ出演や屋台参加などを実現することができた。また地域防災福祉コミュニティでの消火器訓練や環境局のゴミの捨て方講習に外国人留学生の参加を促し、地域の草刈り、川掃除に日本語学校の参加が実現した。地域日本語学校では自分の身は自分で守るための防災授業実施に続き、「やさしい日本語セミナー」に近隣自治会の方々にも参加いただき、そのセミナーの実践編では日本語学校の学生と近隣自治会の皆さんや行政の方々との親しく交流する場の提供を実現することができた。これは次に述べる毎月実施した食糧支援が日本語学校との繋がりを深めたことが大きいと言える。

3. 困窮外国人への食糧支援事業

NPO 法人 NGO 神戸外国人救援ネットと協働で長田区内の各地で地域の自治会関係の方々や地域市民活動団体の人たちと年 11 回日本語学校の外国人留学生への食糧配布と生活実態の聞き取りを実施した。海外事象の JICA 関西のスタッフから寄贈された防寒衣服の提供も同時に行った。このうちの 2 回は神戸国際コミュニティセンターKICC との共同開催で実施した。

4. 多文化共生に取り組む他団体の支援事業

JICA 基金活用事業からの助成を受けて多文化共生に取り組む非営利団体の事業の伴走支援者としてコンサルティングを定期的に実施した。JICA から日比野理事に委嘱され、実施団体は、2023 年度からの継続団体として、一般社団法人にほんごさぽーと北海道（2024 年 11 月まで）、NPO 法人ユナイテッドかながわ（2024 年 11 月に実施団体の都合で事業中止）、三田市国際交流協会（2024 年 11 月まで）の伴走支援を行なった。また、2024 年度に JICA 基金活用事業に採択された、NPO 法人共に暮らす、おきなわ日本語ネットワークの 2 団体の伴走支援を 2024 年 11 月から開始した。

5. 多文化共生、国際協力に取り組む兵庫県内の団体のネットワーク事業

兵庫・国際協力同志の会（HYOMIC）の幹事団体（FMYY、PHD 協会、多言語センター FACIL、Future Code、神戸国際コミュニティセンター、JICA 関西）の一つとして、若者の活動参加を目的に「防災と多文化共生」をテーマにしたセミナーを 2025 年 3 月に開催した。

6. 国内防災事業

- 2024 年 1 月 1 日発災後能登半島地震被災地への支援
 - 10 月 10 日輪島市町野町区もとやスーパーでのミニ FM 局立ち上げのため、トランジスタラジオを発送
 - 2 月 16 日町野町支所臨時災害放送局へトランジスタラジオ発送 応援メッセージ動画の配信
- 10 月 19 日丸五市場防災空地での消火器訓練に地域日本語学校の学生参加要請
- 12 月 14 日たかとりコミュニティセンター・ベトナム夢 KOBE での防災学習
- 神戸市危機管理室との連携
 - 2024 年度も FMYY での外国語番組の重要性の認知・周知に特化した活動を継続していく。懸案の臨時災害放送局立ち上げについての協議も行う。
- 被災地語り部シンポジウム実行委員会との連携



- 2024 年 12 月 7 日 8 日開催「第 10 回全国被災地語り部シンポジウム in 阪神・淡路」～想いと行動は伝播する～に参加
- 実行委員として金理事参加
- パネルディスカッションの企画
- 「阪神・淡路からつながる多世代の語り部」日比野理事登壇。
- 第 3 分科会
 - ◇ 「阪神・淡路からつながる多言語の語り部」大城ロクサナ理事登壇。
 - ◇ 「未来セッション 新しい語り部」
 - ◇ ペルー事務所のジェラルド・セグラ登壇。



◇ 兵庫県立歴史博物館 特別展：「阪神・淡路大震災を伝える・知らせる一情報と通信の 1990 年代」

開催期間：2025 年 1 月 11 日(土)～2025 年 3 月 16 日(日)

博物館在籍の日本近代史学芸員吉原大志氏から特別展展示の資料として FMYY の取り組みを取り上



げていただき多くの資料を展示いただくことができた。

＊その他 地域団体との協働事業 神戸新聞デイリースポーツデジタル版記事の中国語翻訳を担当。

D. 災害の被災者支援・防災力向上事業（国外）

1. 防災力向上事業

①ペルーでのコミュニティ防災事業

大城ロクサナ理事が共同代表を務める一般社団法人ひょうごラテンコミュニティと協力して、ペルー共和国リマ近郊カヤオ特別県ミペルー区及び周辺地域で JICA 草の根技術協力事業「在日日系人が培った知識と経験を生かしたコミュニティ防災力強化事業」（2023 年 1 月から 5 年間）に前年度に引き続き取り組んだ。ミペルー区でモデルとなる自主防災組織の能力強化、同じくミペルー区のモデル校（Fe y Alegria 33 校）での防災教育支援、ミペルー区役所防災課の活動支援、リマ市及び周辺地区の日系学校での防災教育支援などを、専門家（神戸学院大学教員の船木伸江さん、前兵庫県防災士会理事長の室崎友輔さんの現地派遣など）と共に進めた。現地には事務所を開設し、プロジェクトマネージャー（日比野理事）のもとで FMYY スタッフの Segura Gerardo で現地調整業務を担っている。

また、現地の活動パートナー達を対象に被災地研修（2007 年に発生したイカ、ピスコ地震）を実施し、防災における語り部の重要性を学ぶ機会を創出した。

事業開始から 2 年が経過し、日本の防災（特に阪神・淡路大震災）の経験が順調にペルーの事業地域に移転されている。

②インドネシアでの災害ラジオ定着支援

2021 年度に終了した JICA 草の根技術協力事業「官民協働によるコミュニティラジオを活用した地域防災力強化事業」の終了後に現地パートナー団体、JICA インドネシア、インドネシア国家防災庁が、災害発生時に迅速に災害ラジオ局を開設・運用できる地域体制づくり事業に 2023 年度から東ジャワで取り組み、FMYY としてもその事業の側面支援を行なった。同事業は 2025 年 3 月に成功裡に終了し、インドネシア国家防災庁の災害ラジオの有用性の理解がより深まり、官民協働で災害ラジオを開設、運営するノウハウが共有できた。

.多文化共生のまちづくりに資する場づくり、研究、教育、啓発事業

教育現場との連携:

形態	大学・高校・中学・小学校・研究者(国内外)
インターン受け入れ	神戸学院大学、武庫川女子大学、神戸大学、関西学院大学、長田中学校（トライやるウィーク）
講義(非常勤講師・ゲスト講師)	神戸親和大学、神戸学院大学、神戸常盤大学、神戸大学、甲南女子大学、明星大学、駒が林中学校、だいち小学校、神戸保育園
フィールドワーク／研修	ふたば学舎震災学習、甲南女子大学、災害教育学会、立教大学（世界展開力強化事業として中国北京大学学生の見学）、台湾南東県桃米プーリーの台湾国立チナン大学、新故郷文教基金会

II 管理・運営

(1) 団体の運営体制

基本的な体制は 2023 年度を継続、コミュニティメディア事業は市民活動団体として実施した。

(2) 会計

ee 会計（市民活動団体のための会計処理ソフト）で会計処理を進めた。

ファンドレイジング

① 会員・支援者

支援者に対する情報発信力、番組に関してもリスナー確保のための SNS 配信を実施している。

② 寄付



Web サイトからのクレジットカード払いなど簡単便利なシステムを探ったが実現にはハードルが高いと判断、断念した。寄付には個人寄付と一般寄付、そして使途指定寄付がある。また能登半島での大地震に続いて起こった豪雨被害被災地への支援（ミニ FM や臨時災害放送局に関しての情報支援並びにトランジスターラジオの配送）やミャンマー地震災害など、トルコに引き続き被災地への寄付を募った。FMYY では被災地への寄付は、全額被災地支援を実施している団体に基本手渡しで届けている。

日本語学校の外国人留学生への支援に関しては、市民活動団体や能登半島穴水の農家からの米の寄付を受けた。また JICA 関西日系サポーター事業で FACIL、ひょうごラテンコミュニティにインターンとして活動したスタッフが繋いだ JICA 関西関係者からのたくさんの防寒着などを提供した。

③ 会議運営

事務局運営

日本事務所基本的に 2 週間に 1 回水曜日 10 時 30 分から実施。

ペルー事務所との連絡会議:火一土の午前 7 時 50 分から WA ビデオで実施。

ペルー事業運営会議:各週火曜または水曜に 22 時から ZOOM で実施。

理事会

2024 年 5 月 29 日 6 月 13 日 (2023 年度) 7 月 25 日

2025 年 2 月 28 日 5 月 21 日 5 月 28 日

監査

2024 年 6 月 5 日 (2023 年度)

総会

2024 年 6 月 29 日 (2023 年度)